









どうして……
なんでこんなに
強い!!

勝てない……



ゴブリプリン
Lv.124









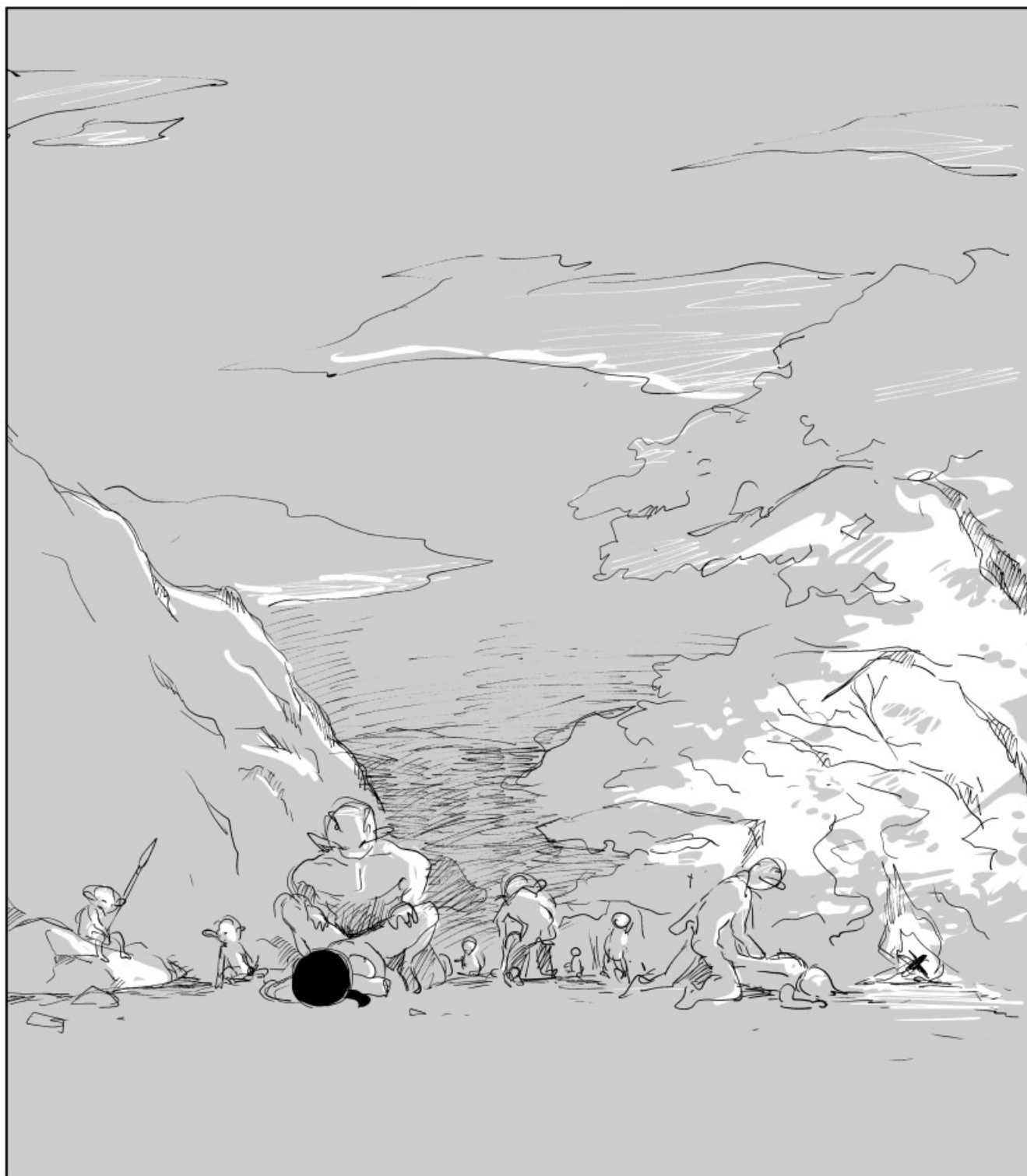
みんな……
犯され
ちゃってる
の……？



そっか……



負けちゃったんだ
私たち……





ゴブリブリン
Lv. 86
↑
Lv. 82

『レベルドレイン』
ゴブリブリン
には使えなかった
はずの高位魔法を
こいつらは
覚えてるんだ……



もう日が
暮れる……
ずっとこいつらに
犯されて

シルヴァ
Lv. 73
↓
Lv. 69

こいつらの
強さの理由が
分かった

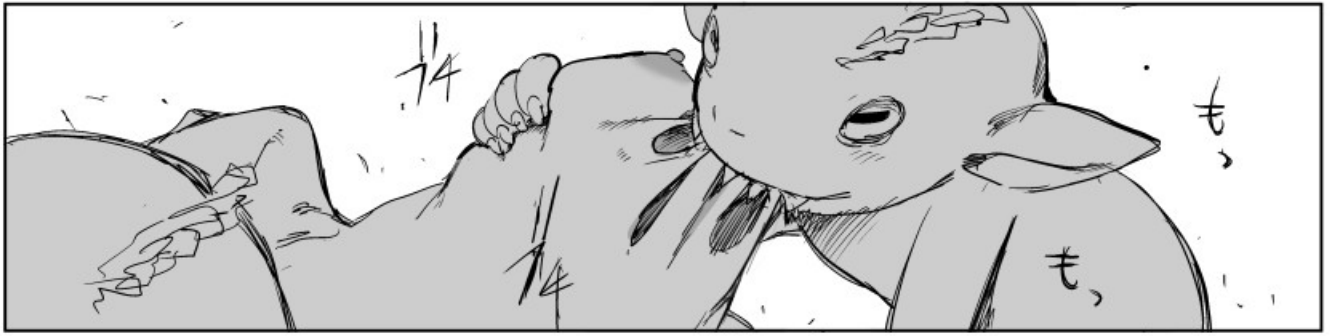


ゴブリブリンの
繁殖力と
組み合わせたら
最悪の魔法だ

生きて帰って
早くみんなに
知らせないと



生きて
帰って





頭部だけは
手を付けずに
残すという

ハルシュ(21)

五人のチームのリーダー。
レベルも高く高い戦闘力を持ち、
冒険者としての実力は非常に高かった。
優柔不断なところがあったため
チームの指揮は
アーダが執ることも多かったが、
ここぞというときの判断力は優れており
チーム内でも頼りにされていた。

冒険者として稼いだお金を、
故郷の貧しい弟たちに仕送りをしている。
弟たちには冒険者のような
危険な仕事ではなく、勉強をして
立派な仕事についてほしいと思っている。

ゴブリブリンの矢を受け死亡。
向かってくる矢に
気付かなかったイリナを
かばう形で矢を受けることになった。

生前は処女であり、死後死体を
複数体のゴブリブリンに犯される。
その後鮮度が落ちないうちに
幼体のゴブリブリンに遺体を
食い尽くされた。

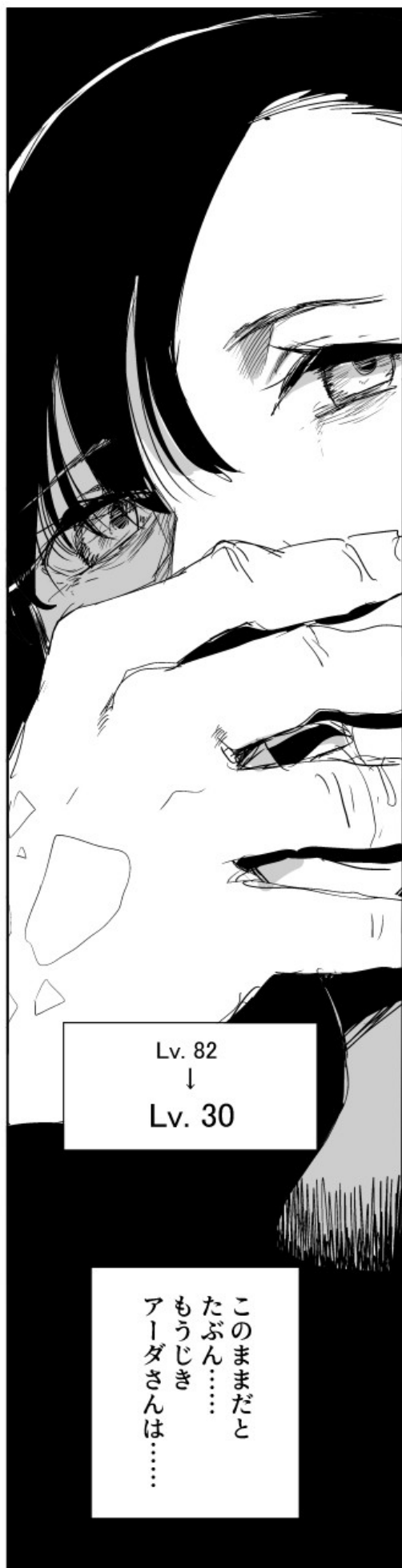




私たちが敗北して
何日たっただろう。
もう分からない。

何度も逃げ出そう
としたけれど
無理だった。
ずっと輪姦の日々だ。

Lv. 69
↓
Lv. 18



Lv. 82
↓
Lv. 30

このままだと
たぶん……
もうじき
アーダさんは……



アーダさんは
ゴブリプリンの
ボスみたいなやつ
お気に入りらしくて、
そいつの専用で
使われているみたい。

一番重症だから
早く治療しないと
いけないのに……



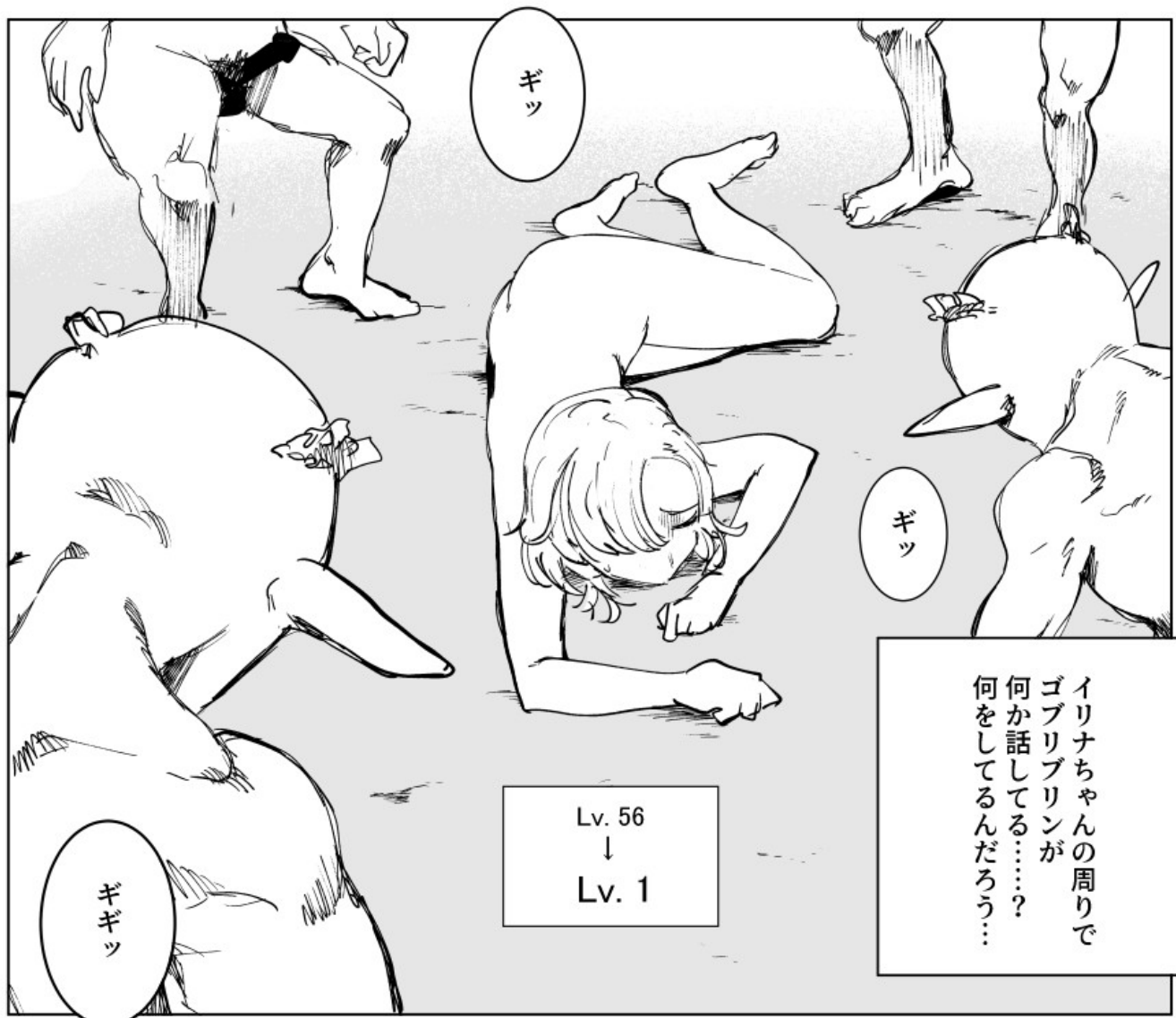
ヘンリーカちゃんは
少し前から
お腹が膨らんできて
妊娠している
みたい。

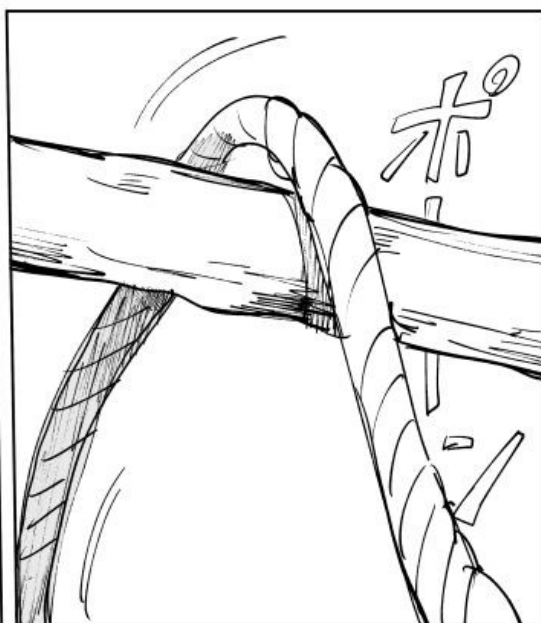
犯されるときも
ずっとお腹を
かばうように
してる。

Lv. 68
↓
Lv. 15

ゴブリブリンの
繁殖速度から
すると……
遠くないうちに
産まれるのかも
しれない。











ひっ……
刃物……？
なんで……

殺され……
やだッ……





待って!
殺さないで!!

殺さないで
ください!!

もっと
気持ちよく
させます
からあっ……

あっ



たっ……
助けてっ!!

アーダちゃん!
ヘンリーカ
ちゃんっ……!!

シルヴァちゃんっ!!
嫌あッ!!
死にたくないっ……!!
助けて!!

ハルシュ
ちゃ……



オッ...











奴らにとって
レベルの吸えない
イリナちゃんはもう
要らなくなっ
たんだ……



イリナ……
ちゃ……

イリナちゃんは
一番レベルが
低かったから……



……
私たちの中で
最初に全部
レベルを
奪われたんだ……
「こ」になるまで……
たぶん……



ギッ……

ギッ……



レベルが
無くなったら……
殺される……

イリナ(16)

冒険者歴1年。
家出を期に街に出て
なんだかんだ冒険者になる。

持ち前のセンスで
みるみるレベルを上げていった。
高レベルパーティーに
入っていたこともあり、
これまで冒険者として活動する中で
一度も敗走する経験が無かったようだ。

首を切断される際には、
時間をかけて最も苦しむような形で
殺害された。(ゴブリブリンの
習性として強い加虐性があるためである。)



イリナちゃんは
私たちの目の前で
解体された。



肉片は
料理されて
ゴブリブリンの
ごはん

『Lv.1』第3話

少しだけ
私たち生き残りの
三人の分として
渡された



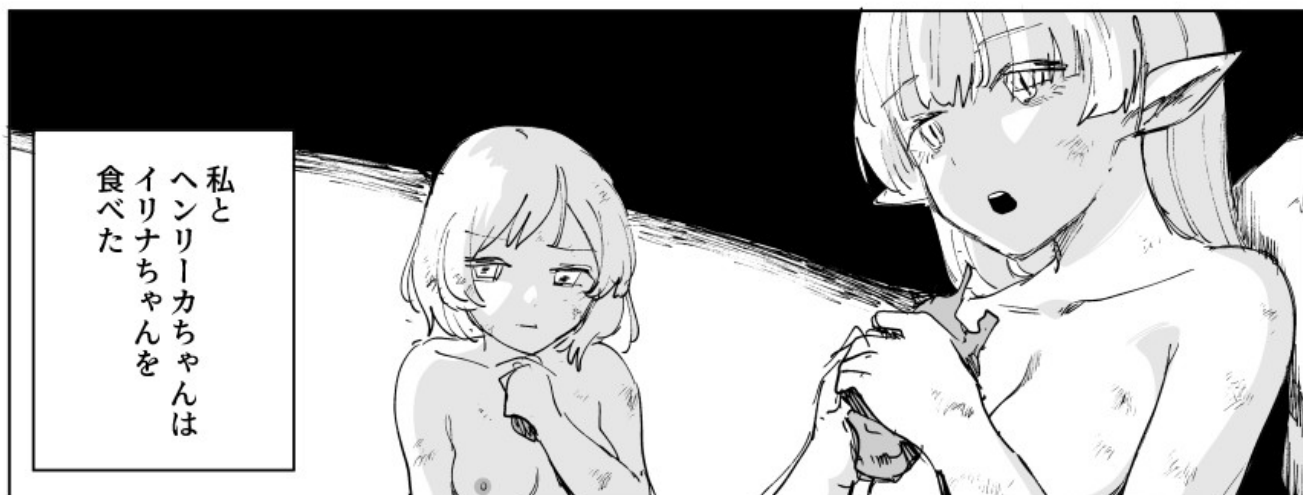
アーダ
さん……
これ……

アーダさんは
一口も
食べなかった

弱っていて
何も食べられ
なかったのかも
しれないし

イリナちゃん
のお肉だから
絶対に食べたく
なかったのかも
しれない





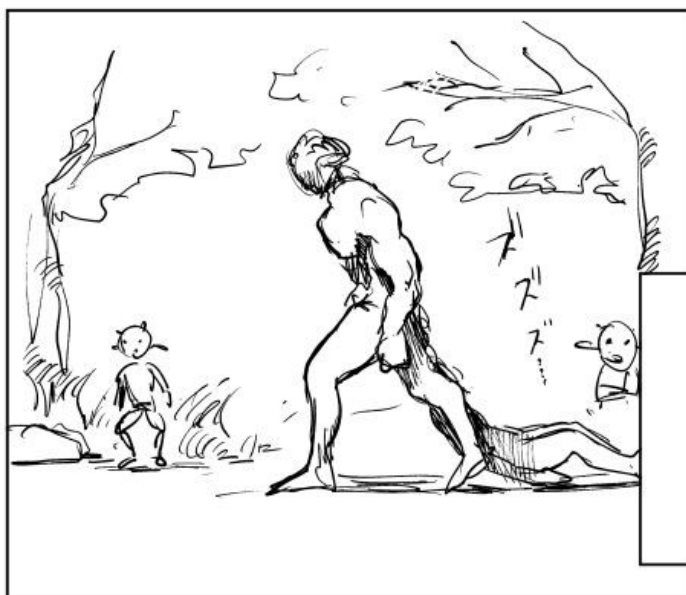
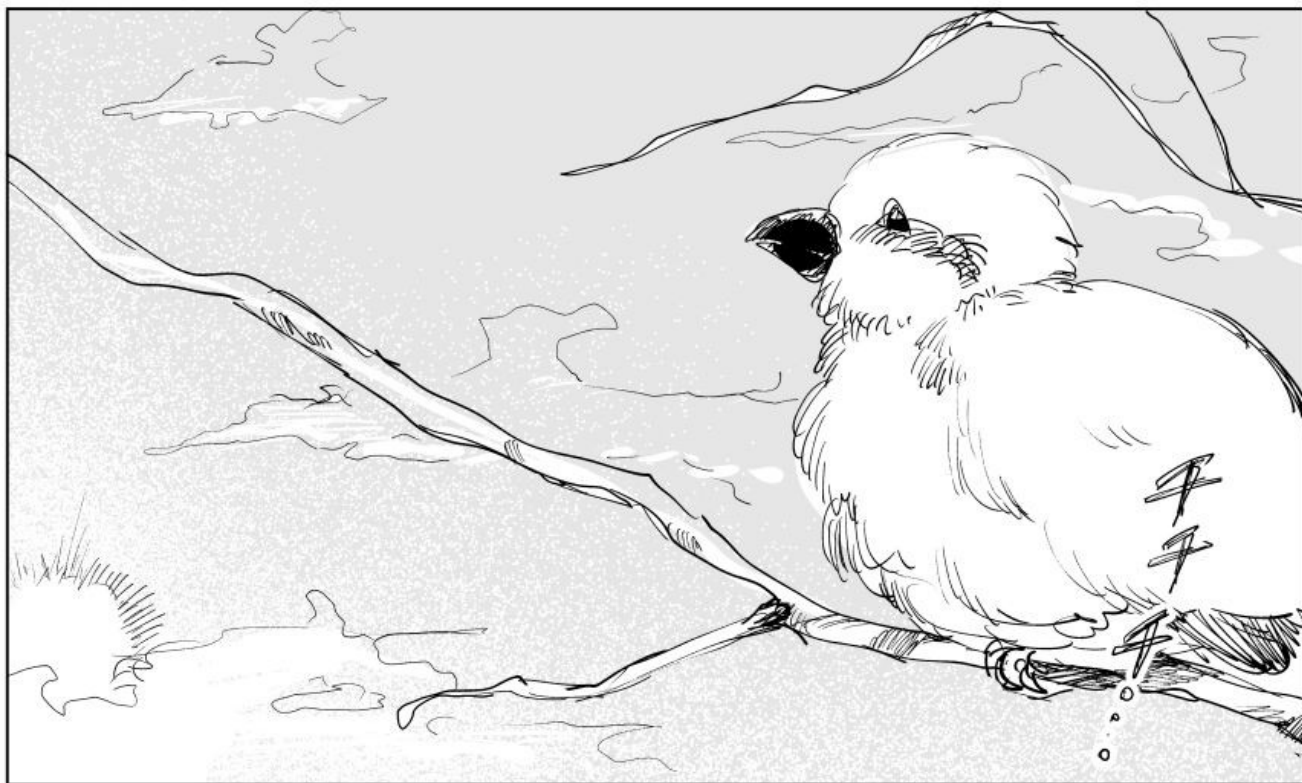
産まれるのは
人間じゃなくて
ゴブリプリンだ

生まれた子がいつか
人を殺すかも
しれないのに……？

もし私が
孕んだら……

いっそ
私は――



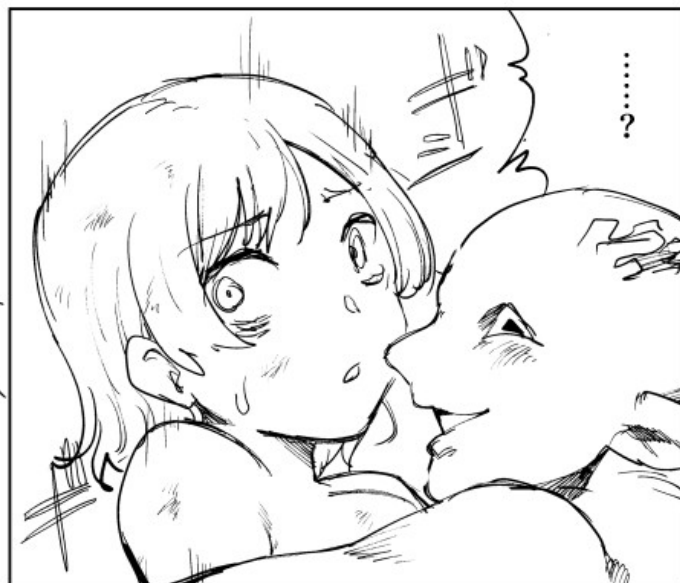


日が明けると
また
凌辱が始まる

いつ
抜け出せる
のかな……？

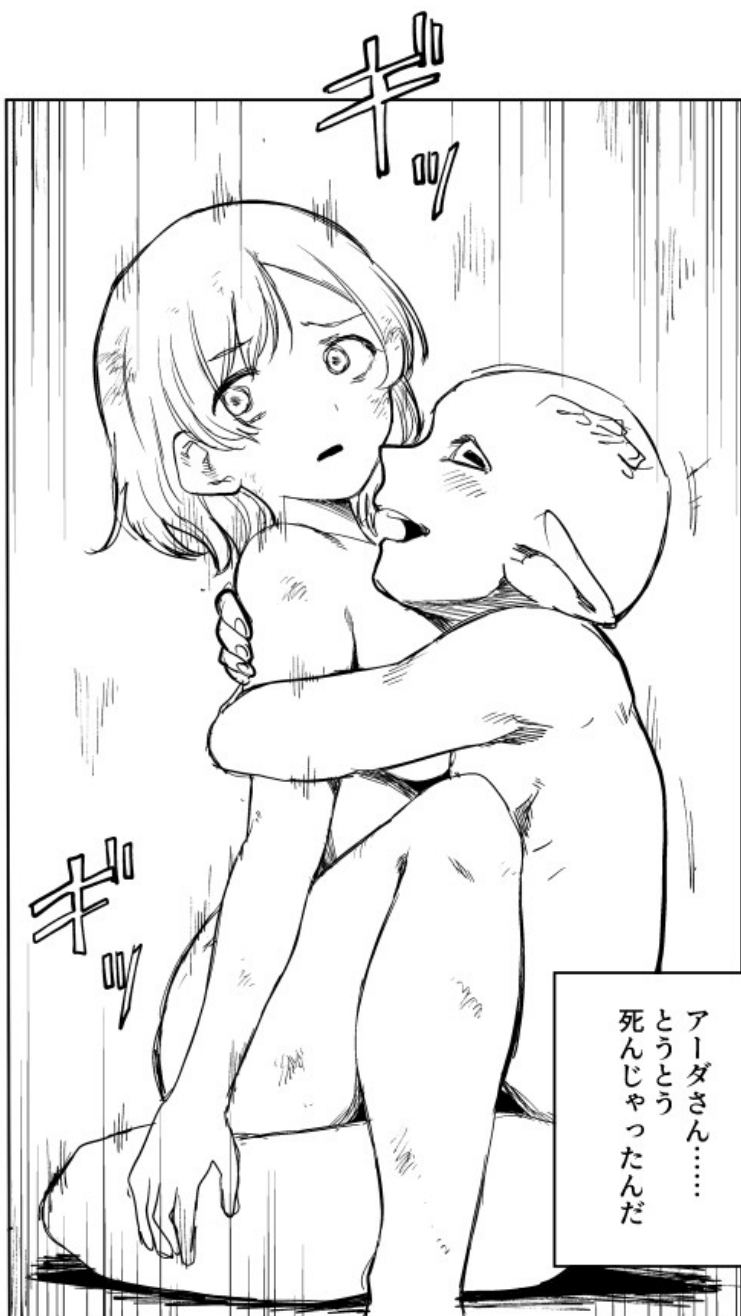
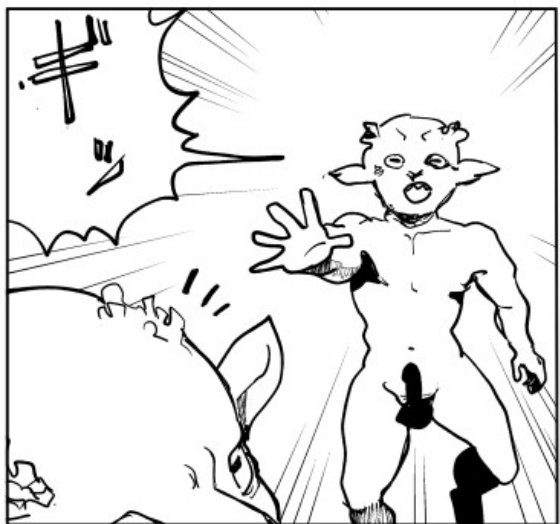


「死んだ」











いや……
これは……



「分けて
るんだ」

たくさんが
同時に
使えるように







アーダさんの亡骸は
しばらく犯され
続けて――



アーダ(20)

武人氣質で
武の道を究めるべく冒険者になった。
ハルシュとは12歳の頃に知り合い、
当初はハルシュとの二人組の冒険者として
名を挙げた。ハルシュのことは良き友であり
ライバルだとも思っている。

ボスゴブリブリンに気に入られ、
専用で使用されることになる。。
生きている間は
他のゴブリブリンの使用が
禁じられていた。

左腕の欠損や
重なる凌辱が要因となり
衰弱死した。
ボスゴブリブリンと繋がったまま
最期を迎えたのだった。

パーティー5人の中で
おっぱいが一番大きい。

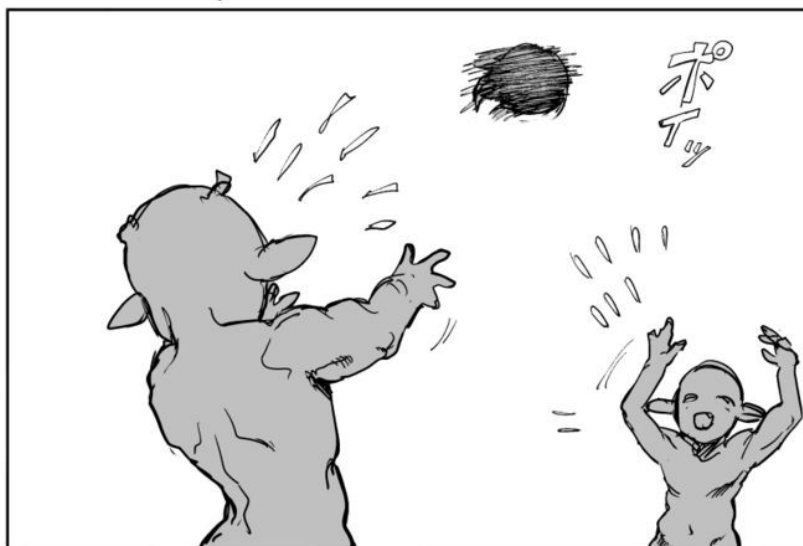




『Lv.1』第4話

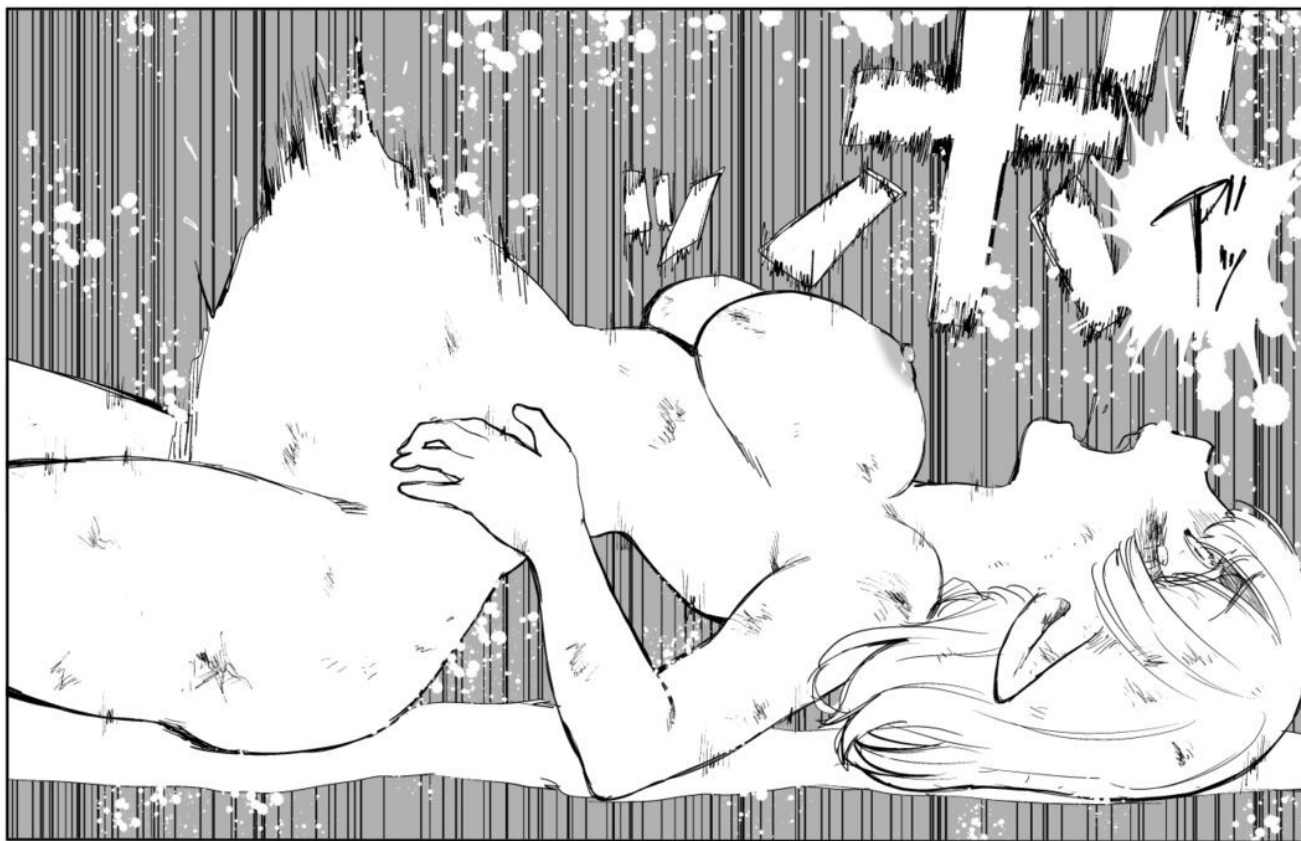






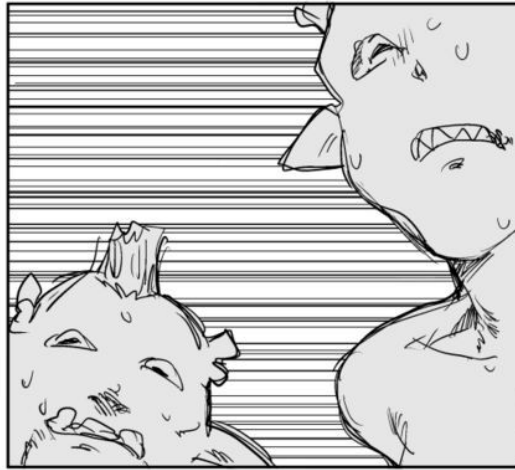




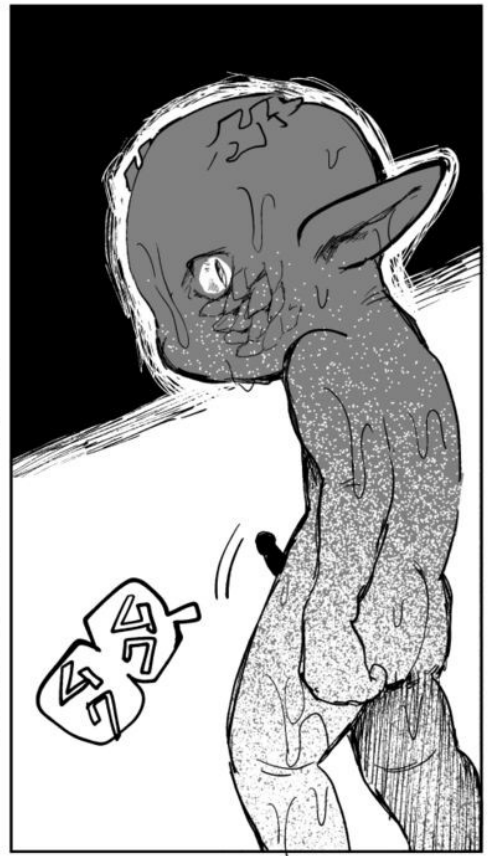


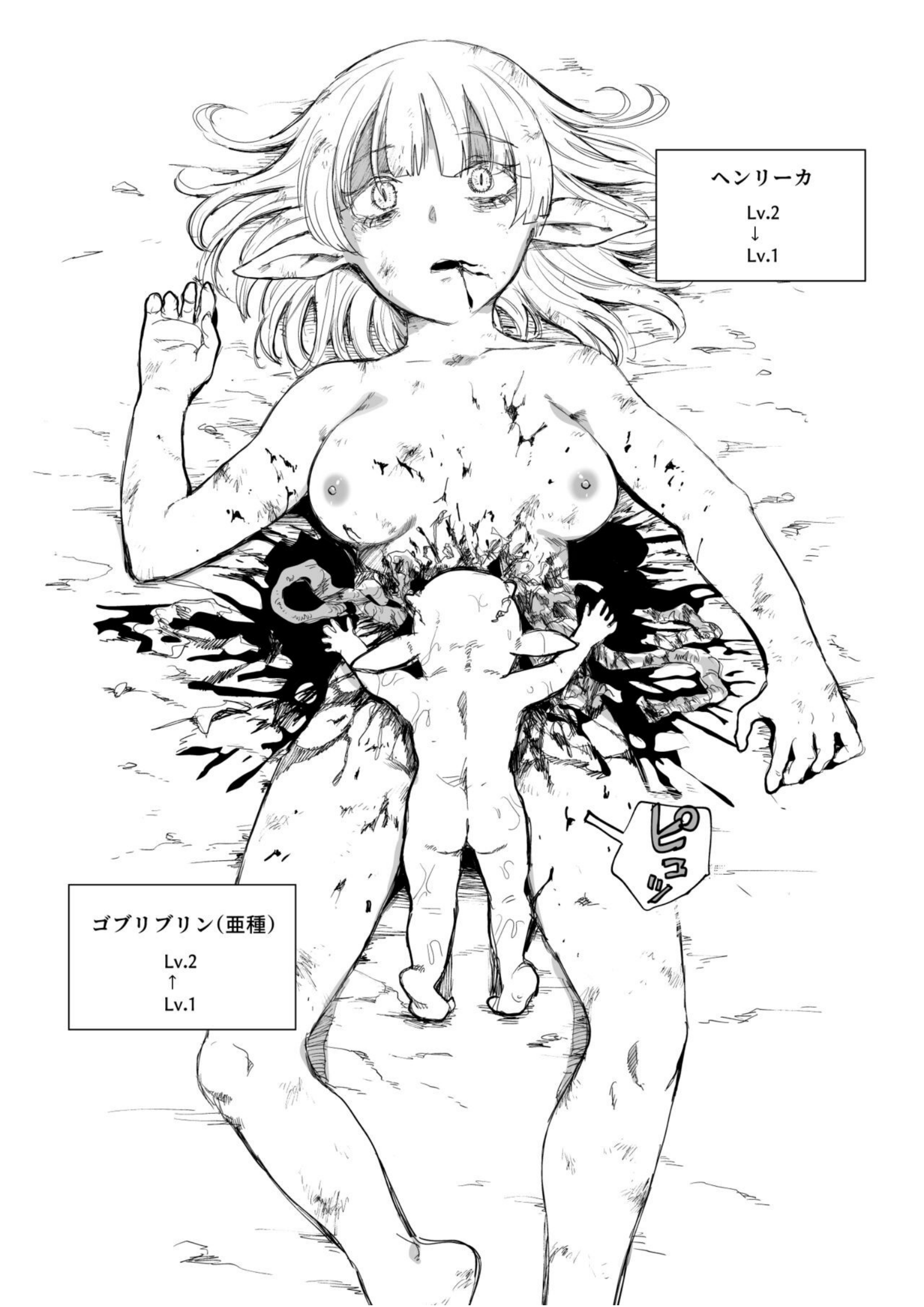






ゴブリブリン
(亜種)
Lv.1





ヘンリーカ

Lv.2

↓

Lv.1

ゴブリブリン(亜種)

Lv.2

↑

Lv.1



ヘンリーカちゃんは
死んだ

残ったのは
私一人になった

ヘンリーカ(18)

物心つく前に故郷のエルフの村は
焼き尽くされた。

孤児となった彼女は
老夫婦に拾われ大切に育てられる。
しかし心の中では血のつながった
肉親に対する憧れを抱き続けていた。

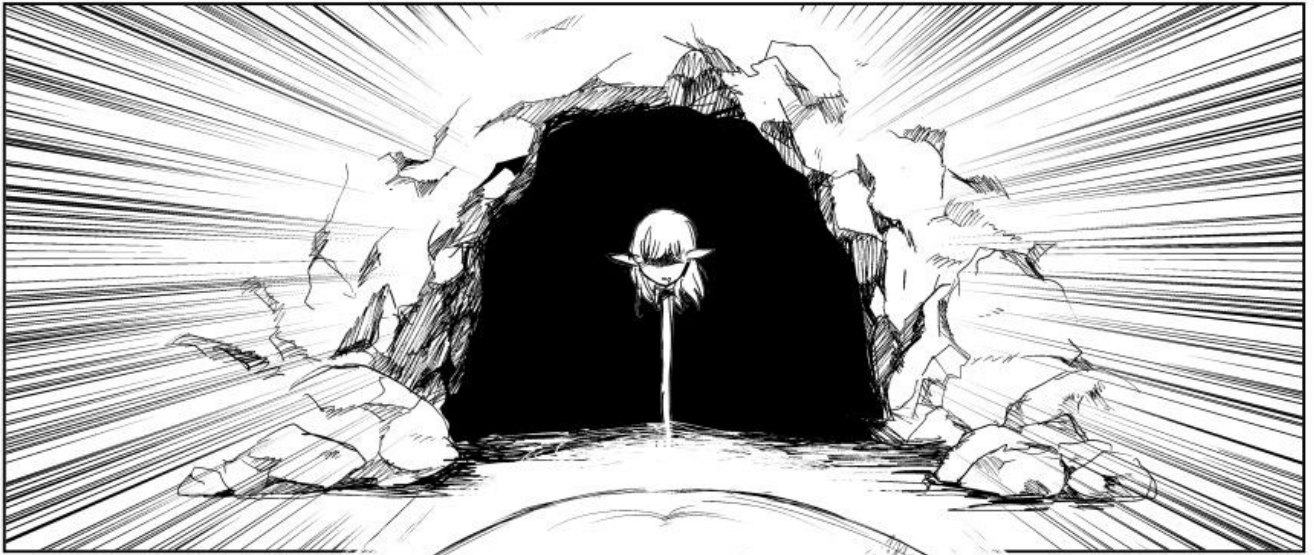
エルフ族と竜族の血が混じった混血。

死体はしばらく
母乳の出る状態だったため
誰が飲むかでゴブリブリンの間で揉めた。

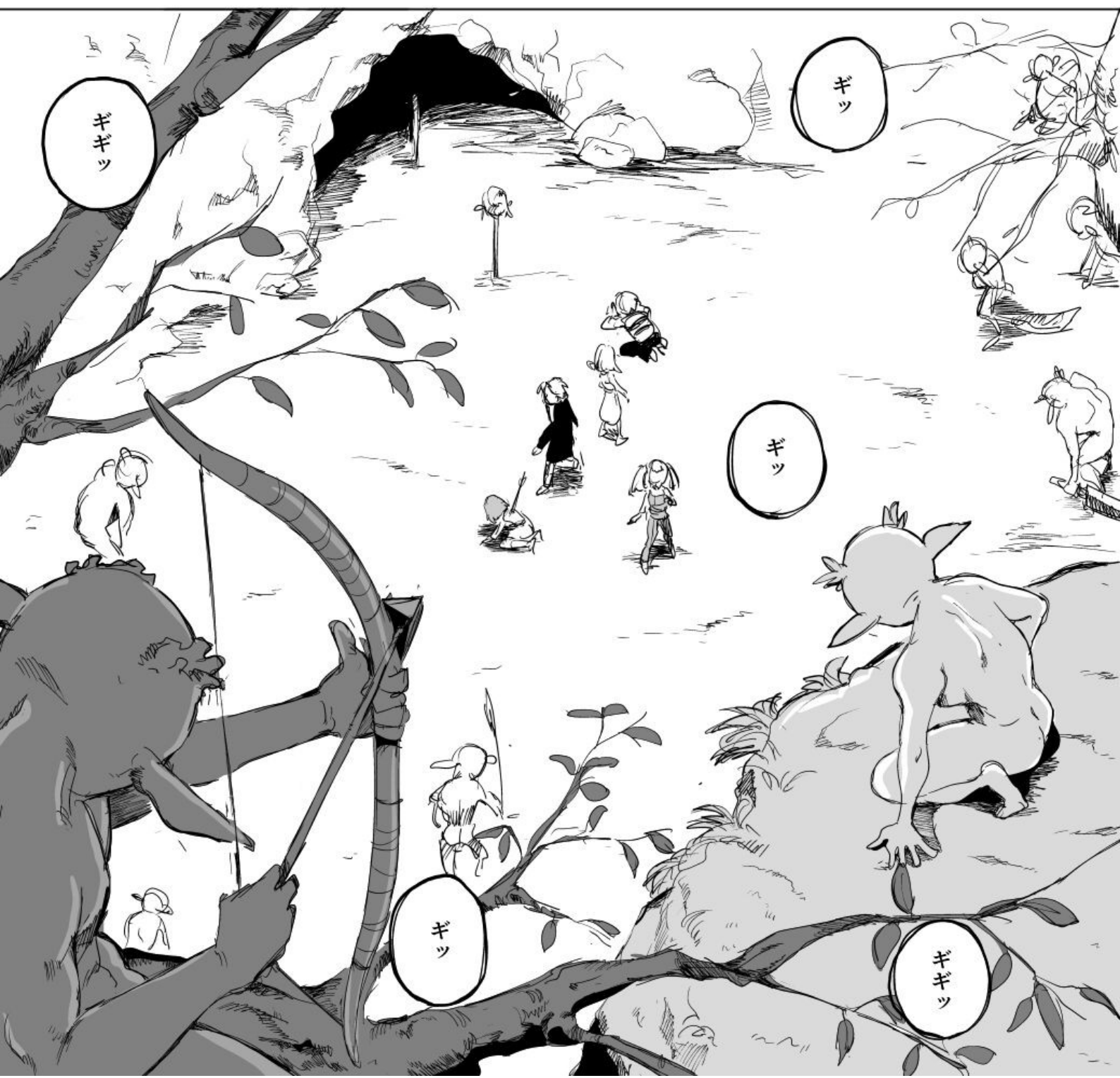


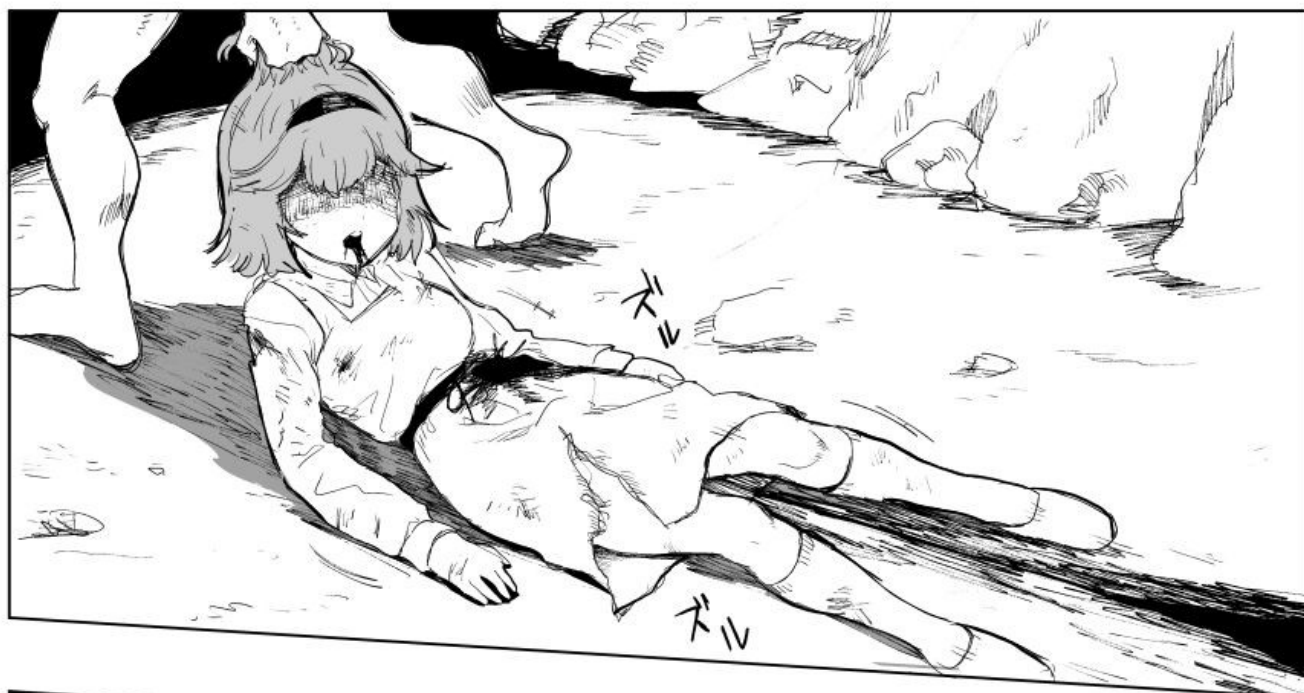














シルヴァ
Lv.1



殺して……

もう……
ころし……



.....



どう
なっ
たん
だっ
け
.....
?



もし
かして
私
殺さ
れる
の
かな

新
しい
人
が
来
た
か
ら
.....



ようやく
終わって
くれる
……

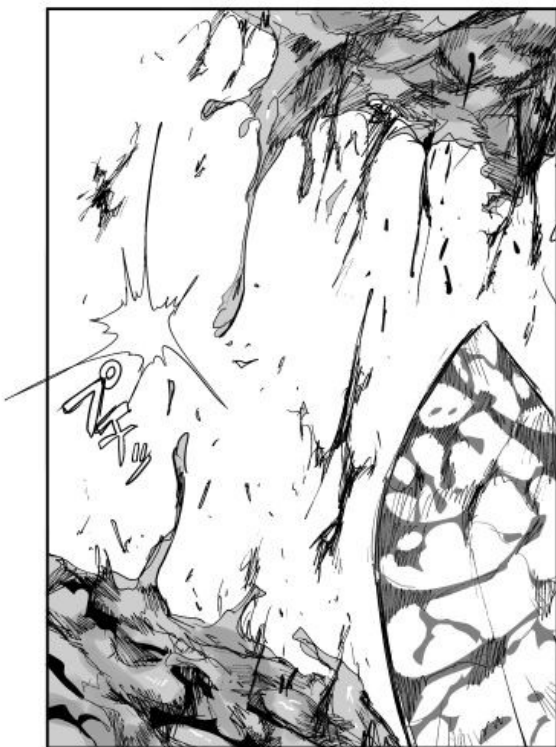
良かっ
……

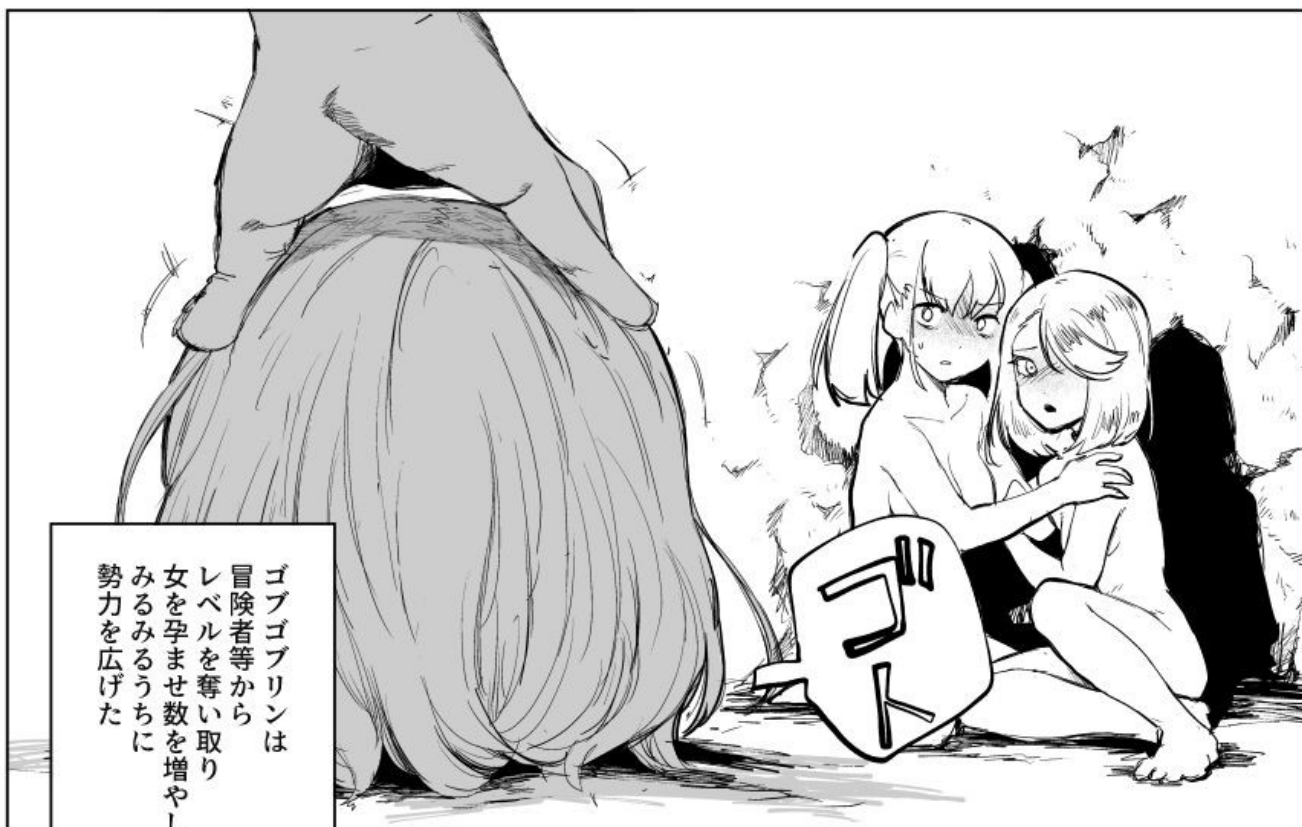


——
いやだ……









ゴブゴブリンは
冒険者等から
レベルを奪い取り
女を孕ませ数を増やし
みるみるうちに
勢力を広げた



後に
人類とゴブリプリン
との戦いは
壮絶な戦争に
発展していく

これはその
初め頃のお話……

シルヴァ(18)

いたって普通の少女であった彼女が
冒険者にあこがれたきっかけは
幼い頃に読んだ一冊の本だった。

悪い魔物と戦い皆を守る本の主人公に憧れ、
両親の反対も押し切り冒険者の道へ進んだ。

仲間たちと出会い、順調にレベルを上げ、
冒険者としては順風満帆な
歩みだったと言える。

ゴブリブリンに斬首され死亡。
それまでの間に六匹の
ゴブリブリンを出産した
死体は一通り犯された後食料に、
生首は数日弄ばれた後洞窟の入り口に
4人の仲間と並べて晒された。





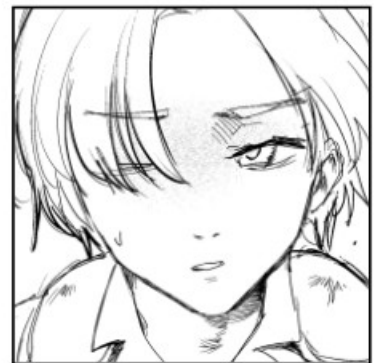
ダヴィド(20)
パーティーのリーダー。
他メンバーを逃がそうと奮闘したが力虚しく戦死した。
死体はホモゴブリ布林に犯され食べられた。

トーリ(19)
ゴブリ布林に捕縛された後孕み袋にされる。約半年の間に
15匹のゴブリ布林を産み落とした後死亡した。
人間としては非常に優秀な母体であったと言える。



ミリアン(17)
アランに思いを寄せていた。気持ちに気付いてくれない本人に、
想いと裏腹についツンツンした態度をとってしまうらしい。
首絞めックス好きのゴブリ布林にうっかり殺害される。

アラン(17)
ゴブリ布林との戦闘後、瀕死の状態で倒れているところを
救助される。ゴブリ布林に復讐を誓った彼は
ゴブリ布林討伐軍のリーダーとなり、人類と
ゴブリ布林との戦いの最前線へと身を投じることとなる。



ナティ(14)
ゴブリ布林との戦闘で重傷を負う。
生きているうちにレベルを吸い取るため急いで輪姦された。
輪姦最中に死亡。

『レベルドレイン』

性交を行うことで相手のレベルを奪う技。
レベルドレインの対象は生きている者
だけである。

ゴブリブリン

長らく討伐が容易な低級魔物であるとされていた。

高い繁殖能力を持ち、他種族の女を妊娠させることが可能。
妊娠から短い期間で出産までに至る。

非常に高い残虐性を持つ。
狩り獲った獲物の生首だけを残す習性が知られており
死体は解体しほぼすべての部位を食べるのに対し、
生首には傷をつけない。
理由に関しては学者間でも度々議論が行われている。

あるときから高位魔法『レベルドレイン』を身に着けたとされる。
その時期を機にゴブリブリンの討伐が困難になっていった。
瞬く間に勢力を拡大したゴブリブリンは
人類の存続を脅かす存在になっていく。

ゴブリブリンは街を破壊し人々を殺戮し、女を孕ませ、殺した。
長い戦争の末、人類は勝利しゴブリブリンは絶滅したとされる。
その争いの間で失われた人間の命は数億にも上ると言われている。
その争いの間で犯され殺されていった女の数も数億にも上る。



ゴブリブリン(亜種)

容貌が他ゴブリブリンとは異なる部分もあり
変異種であると見られる。
高い戦闘能力を持ち
ゴブリブリンの最強の個体だったと言われている。
「ゼストゥーロン」という異名が付けられ識別された。

他ゴブリブリンと比べても性欲が非常に盛んで、
犯し殺した女は数百にも及ぶという。
中でもエルフ族の女を好んでいた。

女を犯すその姿は、
まるでかつて失った何かを
探し求めているかのようなだったという。



A「この前の五人組のメスたち、どれが一番好みだった？」

B「俺は矢が刺さって死んだ女かな。マ〇コは〃人の中でも一番名器だったぜ。」

A「マジか！あの個体はすぐにエサにされちまったから俺は使えなかったんだよな。首は何度かお世話になったけども。体使えた奴なんて何体かしらないだろ。いいな。」

B「俺もまだまだ使いたかったんだけどな。エサにするの早すぎるんだよな。お前はどれが一番好みだった？」

A「俺は小っちゃい女の子が良かったな。〃番目に死んだ子。」

B「あーお前ロリコンだもんな。」

A「やっぱ見た目が好みだったな。最初一番泣き叫んで暴れてたのもチ〇ポにきたぜ。死ぬ瞬間も暴れててめっちゃエロかった(笑)。小ぶりなおっぱいも一番柔らかくて良かったな。」

B「ふーん。じゃ、一番おっぱいの大きかったメスがいただろ、黒髪の。ああいうのは好みじゃないのか？」

A「いやおっきいのも良いんだけどさ、やっぱ小さい方が良くねエ？それにあのメスはボスがずっと独り占めにしてたしあんまり使えなかったし。もちろん死体は俺も使ったしすごい良かったんだけどさ。」

B「生きてるうちにも楽しめたかったよな。ボスもずるいよな。俺もいつか自分のコ〇ニ―持ってボスになりたいなあ。そしたらお気に入りメスのメスを自分だけの肉便器にできるのにな。」

A「まあ俺たちは無理だろう。どれだけ女を犯してレベルを上げててもさ。ボスになるような奴は生まれつき分かるもんだよ。例えばあいつだ、エルフのメスの腹を突き破って出てきた……」

B「ああ、あいつか。あいつ、もう俺らより強えだろ。生まれたばっかなのにさ。ああいうやつがボスになるんだろな。自分で殺した母親犯したときは震えたね。」

A「あのエルフのメスももつたいないよな。一体しか産ませられなかったしさ。今回の5人は皆強かったし強い個体を産んでくれそうだったのに、早く死に過ぎなんだよな。」

B「最後の奴は〃体だかそのくらい産んでくれたし良かったじゃんか。ほら、今足元に落ちてる首の……」

A「あーこのメスも可愛かったよな。俺まだ使いたかったのにいつの間にか処分されてさ。新しいのが入ったからって何もすぐ殺すことないよな。もつたいない。」

B「その首もそろそろ棒に刺して洞窟の入口に晒しとけてさ。」

A「そうかーじゃあこの首だけ最後に使おうかな。」

B「終わったら俺にも貸してくれよ。あとは俺がやつくから。」

